

令和元年度 あしかりこども園 自己評価



1. 保育方針

愛情につつまれながら安心して生きる力を育む養護と教育

2. 保育目標

① あ 明るく	② し しっかり	③ の のびのびと生きる	④ こ 心豊かな子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔あふれる子ども ・心身共に健康でたくましい子ども ・みんなと力を合わせてやりとげられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な挨拶と返事ができる子ども ・最後まで一生懸命取り組める子ども ・よく聞き、自分の気持ちを伝えられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の事は自分でできる子ども ・自然に親しみ感謝する子ども ・なんでもよく食べ、力いっぱい遊べる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を通して郷土を愛する子ども ・優しく思いやりのある子ども ・個性豊かに自分を表現できる子ども

3. 重点目標と評価

重点的に取り組んだ目標	評価
<p>特別支援教育コーディネーターを中心に、在園する対象園児について、保護者との共通理解、支援の進め方、発達相談への橋渡しを行い一人一人に対する個別指導を行う。</p> <p>認定こども園としての役割である「地域の子育て支援の拠点」として、子育て相談、園庭開放、子育てサロンなどを行い、保護者が子育ての喜びを感じられるようサポートする。</p>	<p>個々の特徴や支援の仕方を、専門家、保健師などにアドバイスを受け対応をした。保護者の不安に寄り添い、知りたい情報を発信して子どもにとって、より生活が送りがやすく最善の利益となるよう努めている。</p> <p>毎月2回の園庭開放、月に1回、誕生会に誕生月の未就園児を招待し、在園児と一緒に祝いをする。相談のみの利用者はいなかったが、園庭開放やサロンで来園した際に保護者の悩み、発達段階の不安やアドバイスを求める声が聞かれた。</p>

4. 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	取組状況	評価
教育・保育内容について	<p>◎一人ひとりの「幼児期に育てほしい姿」を継続的・連続的に身につけられるよう、園全体での指導方法の統一化、前担任次担任との連携を図る。</p> <p>◎スキンシップ、アタッチメントの大切さを発信して、「安心の基盤」の上に乳幼児の健やかな成長を促す。</p> <p>◎必要な支援が提供できるよう、子どもの特性を把握し、専門家の助言・指導を受けながら、保護者と園が効果的に連携協力をしていく。</p>	<p>○生活面、遊び、異年齢児交流などの様々な経験を通して、心身の健康、知識の習得、情緒の発達などが見られた。</p> <p>○「はぐはぐ大作戦」と題し、未満児を中心に送迎の際のスキンシップを推奨して、子どもや保護者自身の変化を調査した。子どもと保育教諭とのスキンシップもさらに意識して行った。</p> <p>○個々の成長を見守り、支援が必要な場合、専門家より助言・指導を受け、保護者と連携を取った対応ができるよう努めた。</p>	<p>・園児一人一人が、体験から学ぶ機会を多く持ち成長につながっている。その実感や教育・保育内容の振り返りを園全体で共有することによって、更なる進展が期待できる。</p> <p>・保護者からの、様々な意見が寄せられ、改めて親子のかかわりが大切であるかを再確認されたようだった。同時に、保護者と「はぐ」をする子どもの姿を目の当たりにした保育教諭は精神的な満足感、幸福感を得ることができた。</p> <p>・家庭・園・専門家との連携がとれ、支援体制を築けているので、更に園内での計画を密にとり成長に繋げていく。</p>
防災・安全対策について	<p>◎園児が安心して園生活を送られるよう、防犯対策の徹底、マニュアルを周知して自分が何をすべきか熟知し園児の安全・命を守る。</p>	<p>○園内 11 か所に非常通報装置を設置。外部からの講師を迎え、防犯、安全について職員が指導を受けた。様々な災害を想定し、毎月 1 回の避難訓練、初期消火訓練、交通安全指導を行い真剣に取り組む姿が見られた。</p>	<p>・ハード面での対策が万全であっても、職員の「いつもと違う、何か気になる」という、気づく力が園児を守る一番の対策である為、職員の一人一人の意識を高められるようにした。また、災害の際には小城市のガイドラインをもとに、園児の安全を最優先とし、早めの迎え、休園の措置をスムーズにとれるよう、保護者の理解と協力体制の確立を行っていく必要があるが、どうしても迎えに来られない、仕事を休めないなどの課題も残る。</p>
食育について	<p>◎食事、食材、料理への関心を材料の栽培、収穫、調理、食すという一連の流れを経験することで、感謝の気持ちが芽生えていく</p>	<p>○大豆の栽培→生長観察→収穫→味噌づくり→料理体験（豚汁会）を通し、期待、発見、喜び、感謝という様々な気持ちを感じることができていた。また、年齢にあったクッキング体験も食への関心につながっている。</p>	<p>・体験を通して芽生えた気持ちは、成長過程においてよい栄養分となっている。しかし、飽食の時代で理想的な食生活を送ることはなかなか難しく、家庭との連携が重要となり、園からの発信不足も感じた。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な内容
園児の衛生・健康管理について	園児が成長していく上で、心身ともに健康であるべきと位置付け、発育の状態、身体の衛生、正しい食生活、健康的な成長ができていくことを把握していく。家庭生活を送る上で、適切な養育、健康管理ができるよう発信する。感染症予防の徹底を行い、園児、保護者、職員の健康を守っていく。
職員の資質向上に努める	これまでの研修や、園内研修で自己研鑽をしてきたが、園や自分の教育・保育を見つめるという観点から、外部講師を招いて、意見をいただき学びの機会を設ける。

6. 園の運営について

少子化が進むなか、地域の交流や未就園児に来園の機会を提供し、保護者の子育てのサポートとしての役割に努めている様子が伺えた。昨年6月に苦情が届いたことは、園の体制、役割を今一度考える機会となり、今後に繋がっていくことだろう。この度の、新型コロナウイルス感染症に関しては、三蜜を徹底できにくい状況ながらも対策を取ってもらっているが、今後も園児の心と体の健康を守って教育・保育にあたっていただきたい。

令和2年6月6日

社会福祉法人 芦刈福祉会
理事 岡本 秀実

7. 財務状況

令和元年度、あしかりこども園の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも正確であり園の運営、財政管理は適正に行われていると認められます。

令和2年6月6日

社会福祉法人 芦刈福祉会
監事 久保 勲